

# 「菜の花エコプロジェクト」の推進と資源循環型酪農の実現に向けて！

## - 酪農飼料としての「なたね油粕」の有効利用法の検討 -

淡路農業技術センター

### 1 経緯

淡路島では環境立島「公園島淡路」の実現に向けて、平成12年度から洲本市を中心に「菜の花エコプロジェクト」の取り組みが開始されている。

平成19年度には栽培面積は14haに拡大、搾油施設も完成して本格的なたね油の生産が始まった。

淡路農業技術センターでは同プロジェクトと連携して、搾油施設で発生するなたね油粕（5t程度）を乳牛へ給与し、安全性の確認と有効利用法を検討した。

最近、バイオ燃料やエコフィードへの関心が高まっている。そこで、乳牛になたね油粕を給与した場合の安全性や影響を確認するため飼養試験を行った。

### 2 試験概要

搾乳牛（ホルスタイン種）10頭を2グループに分け、一方にはなたね油粕を約2 / 日・頭、他の飼料に混合して給与（乾物割合で8.3%に相当）し、他方には通常の乳牛飼料を給与した。

28日間（H20.7.16～8.13）試験を行い、飼料摂取量、体重、乳量、乳成分、血液成分、乳牛への安全性などを調査した。



菜の花畑



なたね

地域内資源循環型酪農



乳牛用飼料として利用



なたね油粕



なたねの搾油

### 3 結果

なたね油粕の給与によって飼料摂取量、乳量および血液成分への影響は見られず、以下の点に注意すれば乳牛用飼料として利用可能である。

多給すると乳成分のうち乳蛋白質率や無脂固形分率が低下するので、1日1頭当たり1kgまでの給与に止める。

現行飼料中の蛋白源と置き換え、穀類の給与割合は減らさない。



### 4 今後の展望

菜の花の作付け面積増大に伴い、なたね油粕の産出量も増えることから、地域内の資源循環型酪農の実現に向けて有効活用が期待される。